

# 『サッカーワールドカップ予選と修理道』の関係

みなさん、こんにちは！

来ました！ついにこの日々が！何の日々か？

サッカーワールドカップ予選の日々です。

サッカーバカの自分にとって、至福の1年になります。実はワールドカップより、予選のほうが100倍好きなんです。

夜中に眠い目をこすりながらアウェー中東の地で暑さとガラガラヘビを操るような独特の笛のリズムで金縛りにあったような選手の動きにハラハラドキドキしながらTVで応援するのがいいんです。

もう審判もプロレスのレフリー並みに信じられない劇場型演出の笛を吹いてくれるし、中東の選手の倒れ方や倒れた後の時間の稼ぎ方、ファウルを犯した後の審判への懇願の仕方など、本当に見事に狡猾で最高なんです。

そんな映画のような舞台設定の中で我がサムライジャパンが戦い抜くんです。

サッカーではマリーシア(狡さ)は必要な要素とされているのですが、世界で1番下手なのが日本代表なんです。

残り5分、1点差で勝っている場面。日本人選手がファウルされて倒れこむ。ベンチの監督から『そのまま倒れてろ！』という指示が飛ぶ。今でもう1点取ろうと前がかりに攻めていた集団の歯車のギア比が変わり、なんとなく正々堂々武士道的ではない雰囲気になり、流れが中東側に移る。まるで後ろめたさの埋め合わせをするかのように数分後に1点を献上してしまふ。これが我が愛するサッカー日本代表のパターンです。世界で戦うにはまだぜい弱なんです。でも将来のサムライサッカーの完成の為にはこれでいいんです。どこまでも前のめりに潔く攻めていく、ボールも精神もよどみなく流れるサッカー。これが日本のサッカーだと思えます。

日本人は何でも『道』にしてしまいます。華道、茶道、柔道、剣道、野球道。

何かを習得するときの心技体の変化、状態を見える化して究める世界観。

この世界観が日本人の世界に誇れる『価値』ではないかと思えます。

安い人件費で、大量に生産して、価格破壊し、徹底的に宣伝して、業界のトップを独走するものだけが生き残れるというビジネススタイルが今の世界経済の主流ですが、そこに追従して最終的に資源の枯渇を招く経済に加担するよりも、『道』を感じさせるものづくりを徹底的に極めていくほうが将来的に国民は幸福感を感じられるのではないのでしょうか？

我々もサッカー日本代表の進化を見守りながら、養生、指差呼称、増し締め、一仕事一片付け、区画、通路意識、4Sなど『修理道』を究めていきたいものです。

1台の機械をどれだけ安全に、品質よく、高い技術で、そしていいチームワークで修理できるかを競う修理道のワールドカップがあったら燃えますね。

ドイツのマイスターと決勝戦を戦うのが夢です(笑)！

感謝！羽原篤史



# 社員がサイパンより帰って来ました!!

皆様のおかげでまたサイパンで命の洗濯をして参りました。朝まで飲み明かし早朝にゴミ拾いをし、英霊のモニュメントに拝礼し平和に生きて行ける事に今年も感謝しました。

